

岩国市観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 岩国市

事 業 名 : 観光施設事業(錦帯橋)

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	法非適用企業	事 業 開 始 年 度	昭和41年度
事 業 の 種 類	観光施設事業 (その他観光施設)	施 設 名	錦帯橋
職 員 数	7 人		
事 業 の 内 容	本事業は名勝錦帯橋の日常的な管理と将来にわたって橋を存続させるための施策を行うものである。 名勝錦帯橋の維持管理及び将来の橋の架け替え等のため、入橋料を徴収して基金の積み立てを行っている。		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託		
	イ 指定管理者制度		
	ウ PPP・PFI		

(2) 料金形態

料金の概要・考え方	○入橋料 ・個人 大人(中学生以上) 310円 小人(小学生) 150円 ・団体 大人(中学生以上) 260円 小人(小学生) 120円	
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	平成16年4月1日	

(3) 現在の経営状況

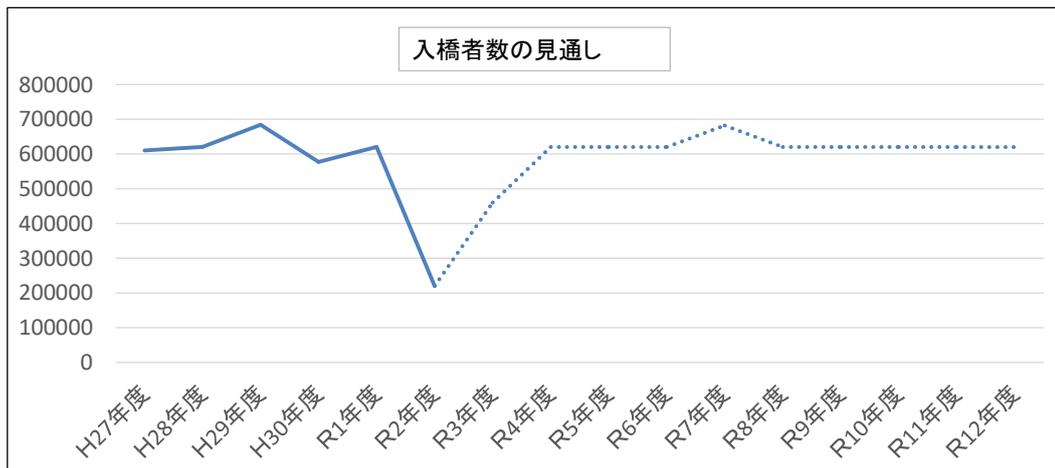
年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	H29	684,151人	H30	577,212人	R1	583,546人
経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	H29	188%	H30	127%	R1	118%
経費回収率 ※過去3年度分を記載	H29	144%	H30	103%	R1	95%
他会計繰入金比率 ※過去3年度分を記載	H29	23%	H30	22%	R1	21%
有形固定資産減価償却率 ※過去3年度分を記載	H29	%	H30	%	R1	%
企業債残高対料金収入比率 ※過去3年度分を記載	H29	%	H30	%	R1	%

錦帯橋管理特別会計は経常収支比率が100%を上回り、黒字を計上しているため、安定的な経営状況にある。年間60万人から70万人の入橋者数で推移しているが、過去2年間では災害や新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、60万人を下回っている。名勝錦帯橋の維持管理及び将来の橋の架け替え等の財源を確保するため、今後も健全な経営に努める。

2. 将来の事業環境

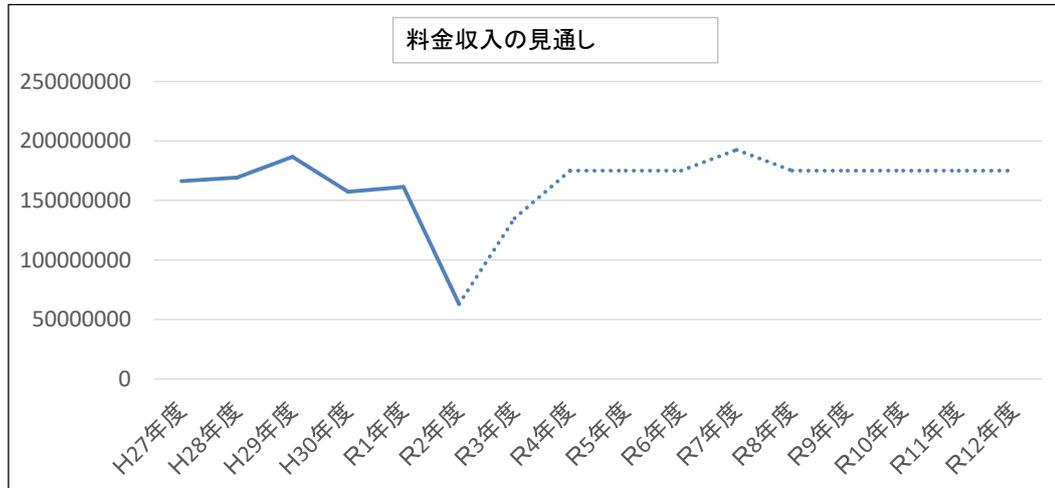
(1) 入橋者数の見通し

令和2年度は新型コロナウイルス感染症等の影響により、大きく落ち込む見込みであるが、令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症の収束とともに入橋者数も回復し、令和4年度以降は安定した入橋者数の確保を見込んでいる。また令和7年度は大阪万博の開催が予定されているため、増加を見込んでいる。



(2) 料金収入の見通し

料金収入については入橋者数の増減に比例しているため、「(1)入橋者数の見通し」と同様の推移を見込んでいる。



(3) 施設の見通し

前回の錦帯橋の架け替えは平成13年度から平成15年度にかけて実施しており、今後は周辺施設の老朽化及び設備更新が見込まれ、また将来的には橋の架け替えも必要となる。これらに備えて、基金の積立てや補助金等の財源の確保に向けた資金計画を進めていく必要がある。

(4) 組織の見通し

平成27年度から錦帯橋に関する業務を拡充するため、錦帯橋課を設置し、職員の人件費の一部を一般会計から繰り入れて運営している。今後も事業規模に即した適正な定員を配置し、人件費の適正化に努める。

3. 経営の基本方針

錦帯橋は、江戸時代と変わらない姿を残す現役の木造橋梁である。またその独創的な橋から広がる眺望が大変優れていることから、橋を取り巻く河川エリアが国の「名勝」に指定され、市民をはじめ多くの人々に愛されている。岩国市の歴史的建造物である錦帯橋を後世に残していくため、適切な維持管理を行う。

4. 投資・財政計画(収支計画)

- (1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙のとおり
(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	創建以降、技術の継承や改良を加えながら、錦川兩岸を繋ぐ機能を維持しつつ、同じアーチ構造の形状と意匠で継承されてきた錦帯橋を確実に保存管理していくとともに、橋梁を核として名勝指定地内外の橋梁周辺の要素や環境と一体となって形成される名勝錦帯橋の風致景観を良好な状態で適切に保全する。
-----	---

- ・名勝錦帯橋の本質的価値を構成する要素の維持・改善に必要な整備を実施する。
- ・名勝錦帯橋の本質的価値の理解に必要な施設を周辺地域と連携して整備する。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	名勝錦帯橋の適切な保存活用を推進していくために、保存整備に備えた運営方法を検討する。
-----	--

- ・国からの補助金の活用に向けた協議を進めるとともに、維持管理経費の削減等により錦帯橋基金の積立てを着実に進める。
- ・社会環境の変化や錦帯橋の保存整備の資金計画の立案結果を受けて、必要に応じて料金改定を検討する。
- ・新たな財源として、ふるさと納税制度(文化財保護及び活用事業)を活用した寄付やクラウドファンディングによる資金確保等の新たな財源確保に向けた検討を進める。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

- ・錦帯橋の料金徴収等の業務については民間へ委託しており、今後も予定することで経費節減に努める。
- ・人件費等の経常経費の節減に努め、収支の均衡を図る。

(3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	
投資の適正化	名勝錦帯橋保存活用計画に定めた施策を着実に実施する。
その他の取組	

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金	名勝錦帯橋を後世に継承していくために、持続可能な運営方法を構築する。
稼働率・利用者数	利用者数 年間約60万人
企業債	
繰入金	人件費の一部を一般会計から繰り入れているが、それ以外の繰り入れについては原則として行わない。
資産の有効活用等による収入増加の取組	
その他の取組	

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	錦帯橋料金徴収や清掃等の業務については民間へ委託しており、今後も予定することで経費節減に努める。
管理運営費	文化財としての価値の維持に必要な経費や来訪者へのおもてなしのための経費について適正な支出を行うとともに経費節減に努める。
職員給与費	事業規模に即した適正な定員を配置し、人件費の適正化に努める。
その他の取組	キャッシュレス決済の導入により、来訪者の利便性の向上を図る。

5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	錦帯橋は、岩国市の歴史・文化・観光の中心であり、長年にわたり市民や多くの観光客に親しまれてきた。本施設は、観光業のみならず各方面に多大な影響を及ぼしていることから、現状のまま事業実施を継続していくことが重要であると考えます。
公営企業として実施する必要性	当該施設は岩国市の歴史・文化・観光の中心であり、国指定の名勝であることから適切な維持管理や保存活用を行っていく上で公営企業として運営する必要がある。

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	経営戦略の計画期間は10年としているが、年度ごとに進捗状況の確認、検証を行い、必要に応じて収支計画の見直しを行っていく。
---------------------	--

